

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの保健		
必修選択	必修	(学則表記)	子どもの保健		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	『子どもの保健と安全』 学習の手引き			出版社	教育情報出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	発育途中にある乳幼児は、環境の変化に対する適応力が低く、感染症にも罹りやすい。成人とは異なるため、子どもの健康を保持増進するだけでなく、健全な発育を促すことも必要不可欠である。ここでは、子どもの特徴、発育・発達の様子、子どもの疾病、子どもに多い症状、予防接種について学習する。				
到達目標	・保育士として必要な子どもの保健についての基礎知識を身につけ実践することが出来る。 ・乳幼児期に罹患する疾病について正しい知識を獲得し説明することが出来る。 ・子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解し説明することが出来る。				
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％・修得確認：50％・授業態度：30％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格				
関連科目	子どもの食と栄養Ⅰ、幼児理解の理論と方法、保育の心理学Ⅰ、家庭支援論、教育相談				
備考	この授業は、原則対面授業形式にて実施する。				
担当教員	赤江 香織			実務経験	○
実務内容	幼稚園にて教諭として3年勤務。保育園にて保育士として8年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	子どもの心身の健康と保健の意義	保健活動、健康の概念、健康指標、現状と課題、地域の保健活動と児童虐待の防止について学ぶ。
2	子どもの保健の諸統計 1	人口統計、出生率について学ぶ。
3	子どもの保健の諸統計 2	死亡率、事故・けが・病気の予防について学ぶ。
4	子どもの心身の発達とその評価	発達の順序と連続性、発達の臨界期と基本的方向性、精神発達、健康状態の把握について学ぶ。
5	子どもの生理機能の発達 1	生体の成り立ち、ホメオスタシス、呼吸について学ぶ。
6	子どもの生理機能の発達 2	乳幼児突然死症候群、体温について学ぶ。

7	子どもの生理機能の発達 3	血液・循環・脈拍数について学ぶ。
8	子どもの生理機能の発達 4	消化吸収、排泄、睡眠とホルモンについて学ぶ。
9	子どもの脳神経系の発達	神経系のしくみ、神経細胞、発達と反射について学ぶ。
10	子どもの運動機能の発達とその評価	運動機能の発達、方向性、評価について学ぶ。
11	子どもの感覚の発達とその評価	視覚、聴覚、味覚・嗅覚・触覚の発達について学ぶ。
12	子どもの歯の発達とケア	乳歯と永久歯の発達、健康状態、健康管理について学ぶ。
13	修得確認	第1章から8章までの振り返りを行う。
14	子どもの病気と予防・手当 1	病気の特徴、先天異常について学ぶ。
15	子どもの病気と予防・手当 2	呼吸器、循環器の病気について学ぶ。
16	子どもの病気と予防・手当 3	血液、消化器の病気について学ぶ。
17	子どもの病気と予防・手当 4	悪性腫瘍、精神神経系の病気について学ぶ。
18	子どもの病気と予防・手当 5	泌尿器・生殖器、皮膚の病気について学ぶ。
19	子どもの病気と予防・手当 6	整形外科、口腔の病気について学ぶ。
20	子どもの病気と予防・手当 7	眼、耳・鼻の病気について学ぶ。
21	子どもの病気と予防・手当 8	内分泌の病気、予防接種について学ぶ。
22	個別な配慮を要する子どもへの対応 1	保健的対応、3歳未満児への対応について学ぶ。
23	個別な配慮を要する子どもへの対応 2	アレルギー性疾患、慢性疾患、障害のある子ども・医療的ケア児への対応について学ぶ。
24	修得確認	第1章からこれまでの手引きの理解度テスト・レポートテストを中心に修得確認を行う。
25	保健的観点をふまえた保育環境と援助・保育における健康と安全管理	健康と保育環境、個別的対応、集団全体の健康と安全管理、衛生管理、事故防止と安全対策、危機管理と災害への備えについて学ぶ。
26	子どもの体調不良・けがと応急手当	体調不良・けがと応急処置、救急処置と救急蘇生法について学ぶ。
27	子どもの保健と感染症対策ガイドライン	「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく予防、対処について学ぶ。
28	子どもの保健指導	保健と行政、集団と保健行事、保健指導について学ぶ。
29	子どもの健康と安全管理の実施体制	職員間の連携・協働と組織的取組、保健活動の計画と評価、母子保健・地域保健における自治体との連携、家庭・専門機関・地域の関係機関等との連携について学ぶ。
30	修得確認	子どもの保健の必要性を振り返り、修得確認を行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭支援の心理学		
必修選択	必修	(学則表記)	子ども家庭支援の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	①「スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学」 ②「学習の手引き」			出版社	萌文書林 第1版

科目の基礎情報②

授業のねらい	発達における初期体験の重要性、各時期の移行、発達課題等を整理し、そうした発達を支える家族・家庭の機能を理解する。また子どもの精神保健についても基礎知識を習得する。これらの学習をとおして、現代の子育て状況と課題を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を学ぶ。				
到達目標	①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解し説明が出来る。 ②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係について発達の的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、保育実習の際に支援する気持ちを持ち対応することが出来る。 ③子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解し援助が出来る。 ④子どもの精神保健とその課題について理解し保育実習で子どもの姿を観察し発達を捉えられる。				
評価基準	・学習の手引き(理解度テスト・レポートテスト)：20％・テスト：50％・授業態度：30％ ・科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある ・成績評価が2以上				
関連資格	保育士資格				
関連科目	子どもの保健 社会的養護Ⅰ 幼児理解の理論と方法				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	豊田 順子			実務経験	○
実務内容	公立小学校・中学校、専門学校にてスクールカウンセラーとして10年勤務 (公認心理士・臨床心理士・学校心理士の資格保持)				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	乳幼児期の発達	新生児から幼児期までの発達特徴とかかわりについて学ぶ（学習の手引き第1講）
3	児童期の発達	児童期の発達特徴と教育の諸問題について学ぶ（学習の手引き第2講）
4	青年期の発達	青年期の発達特徴と乳幼児期との関係について学ぶ（学習の手引き第3講）
5	成人期・高齢期の発達	成人期、高齢期の発達や心理的課題について学ぶ（学習の手引き第4講）
6	家族・家庭の意義と機能	家族や家庭の意義と機能について学ぶ（学習の手引き第5講）
7	修得確認	学習の手引きの理解度テスト・レポートテストの内容を中心に修得確認を行う。

8	親子関係・家族関係の理解	家族を理解し支援するための理論や技法について学ぶ（学習の手引き第6講）
9	子育てを取り巻く社会的状況	現代における結婚、出産、子育てに関する状況について学ぶ（学習の手引き第7講）
10	ライフコースと仕事・子育て	ライフコースの観点から保護者理解、保護者支援を考える（学習の手引き第8講）
11	多様な家族の現状	多様な現代の家族の現状を概観し、その支援を考える（学習の手引き第9講）
12	配慮を要する家庭①	保護者の疾患や障害など、特別なニーズがある家庭への配慮を学ぶ（学習の手引き第10講）
13	修得確認	学習の手引きの理解度テスト・レポートテストの内容を中心に修得確認を行う。
14	修得確認	修得確認の内容・結果を踏まえ、まとめ・補足を行う。
15	修得確認	修得確認の内容・結果を踏まえ、まとめ・補足を行う。
16	配慮を要する家庭②	虐待が子どもに与える心理的影響と支援を考える（学習の手引き第11講）
17	子どものストレス	子どものストレスによる症状とその対応について学ぶ（学習の手引き第12講）
18	睡眠・食事・排泄にかかわる症状	睡眠・食事・排泄に関する症状とその対応について学ぶ（学習の手引き第13講）
19	その他の症状	チック、吃音、選択性緘黙について学ぶ（学習の手引き第14講）
20	発達障害	発達障害の症状と対応について学ぶ（学習の手引き第15講）
21	修得確認	学習の手引きの理解度テスト・レポートテストの内容を中心に修得確認を行う。
22	修得確認	修得確認の内容・結果を踏まえ、まとめ・補足を行う。
23	全体総まとめ・確認テスト	本科目の実施内容の習得状況の確認を行う
24	総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める
25	総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める
26	総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める
27	総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める
28	総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める
29	総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める
30	修得確認	1年間のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会的養護Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	社会的養護Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	①「児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ」 ②学習の手引き			出版社	萌文書林

科目の基礎情報②

授業のねらい	児童福祉施設で働く施設保育士に必要な社会的養護の知識を習得する。児童養護の歴史と体系、関連する法律、現在の施設養護や里親養育について学び、様々な立場で生活する子どもを理解する。子どもの権利擁護、自立支援について、生活場面における具体的援助のあり方について考える。「子どもの虐待」「トラウマ」「愛着障害」「発達障害」に関する知識を身に付け、生活の中での支援を学ぶ。家族関係の調整、学校や地域との連携、援助者の資質、倫理等についても理解する。授業では、様々な困難を抱えた子どもを理解することを重視し、施設保育士に限らず保育所等の通所施設の保育士としても必要な知識の習得をする。				
到達目標	1. 現代の養護問題の歴史的背景及び体系を理解できる。 2. 社会的養護の体系、児童福祉施設や里親などの役割について理解できる。 3. 社会的養護の基盤となる原理を児童福祉との関連において理解できる。 4. 施設養護における「子どもの権利擁護」及び「自立支援」の考え方を理解できる。				
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％・修得確認：50％・授業態度：30％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格				
関連科目	保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、保育者論、教育原理、教育制度論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	豊田 順子			実務経験	○
実務内容	公立小学校・中学校、専門学校にてスクールカウンセラーとして10年勤務 （公認心理士・臨床心理士・学校心理士の資格保持）				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	現代社会における社会的養護の意義と変遷	第1講Ⅰ～Ⅲ 社会的養護の歴史を踏まえ、現代社会における子どもと家族が抱える問題について学び、社会的養護を学ぶ意味と保育士の役割を理解する。
2	子どもの人権擁護と社会的養護	第2講Ⅰ～Ⅲ 子どもの権利を社会的養護の場でどのように展開するか、また、施設保育士としての論理と責務について学ぶ。
3	家庭の機能と社会的養護	第3講Ⅰ～Ⅲ 子どもが生活する場における家庭機能について理解し家庭養護と施設養護の体系を学ぶ。
4	社会的養護の基本原則Ⅰ：養育一日常生活支援一	第4講Ⅰ～Ⅱ 子どもの人権に配慮した日常生活支援の実際を学び、施設規模による養育への影響について考察する。

5	社会的養護の基本原則Ⅰ： 養育一日常生活支援一	第4講Ⅰ～Ⅱ 子どもの人権に配慮した日常生活支援の実際を学び、施設規模による養育への影響について考察する。
6		
7	社会的養護の基本原則Ⅱ： 保護 一自己実現に向けた支援一	第5講Ⅰ～Ⅱ 家庭から保護し養育する際の支援の視点と親子関係調整について学ぶ。また、地域との関係調整についても理解する。
8	社会的養護の基本原則Ⅲ： 子どもであることへの回復 一治療的支援一	第6講Ⅰ～Ⅱ 被虐待児の心の癒しや傷の回復への支援の視点を学ぶとともに、施設内の他職種とのチームワークについて理解する。
9	社会的養護の基本原則Ⅳ： 生活文化と生活力の修得 一自立支援一	第7講Ⅰ～Ⅲ 日常生活を通して生活文化と生活力を修得する支援の実際を具体的に学ぶ。自立支援のあり方を学び、保育士の専門性を理解する。
10	社会的養護の基本原則Ⅴ： 生命倫理観の醸成 一生と性の倫理一	第8講Ⅰ～Ⅱ 生と性の倫理について、社会的養護における捉え方、支援について理解する。
11		
12	社会的養護の制度と 実施体系	第9講Ⅰ～Ⅲ 制度と実施の体系、社会的養護に携わる専門職について学ぶ。
13		
14	施設養護の対象・形態・専門職 Ⅰ 一乳児院と児童養護施設一	第10講Ⅰ～Ⅳ 乳児院と児童養護施設の事例を通して、社会的養護の実践について理解する。
15	修得確認	修得確認を実施する。
16	施設養護の対象・形態・専門職 Ⅱ 一障害児の入所施設一	第11講Ⅰ～Ⅲ 第3講Ⅲ障害児の入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について理解する。
17		
18	施設養護の対象・形態・専門職 Ⅲ 一児童自立支援施設と児童心理 治療施設一	第12講Ⅰ～Ⅲ 社会に適応しづらい子どもの入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について理解する。
19		
20	家庭養護の特徴・大正・形態 一里親・ファミリーホーム一	第13講Ⅰ～Ⅴ 里親とファミリーホームについて、制度と養育の実際を理解する。
21	社会的養護の現状と課題①	第14講Ⅰ～Ⅲ 施設の運営管理について基礎的な知識を得る。また、保育士としての倫理の確立と権利擁護の仕組みについて理解する。
22	社会的養護の現状と課題②	第15講Ⅳ～Ⅴ 被措置児童等虐待の防止、地域福祉との関係、施設保育士として求められていることについて理解する。
23	修得確認	修得確認を実施する。
27	総まとめ	修得確認の振り返りを行う。
24	総まとめ	現代の養護問題の歴史的背景及び体系を理解する。
26		
25	総まとめ	社会的養護の体系、児童福祉施設や里親などの役割について理解する。
28		
29	修得確認	修得確認を実施する。
30	総まとめ	1年間のまとめを行なう。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育カリキュラム論		
必修選択	選択	(学則表記)	保育カリキュラム論		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	①保育の計画と評価-幼稚園・保育所・認定こども園の豊かな保育実践のために（第2版） ②平成29年告示幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園・保育要領・保育所保育指針原本 ③学習の手引き			出版社	萌文書林 チャイルド社

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもの望ましい育ちを目指して、育てたい姿を描くことや、子どもの実態に即した指導計画の立て方や環境構成に関して学び、実習の指導計画案を作成できるようにする。				
到達目標	1. ☒ 保育における計画の意義を理解し、その編成の基本的な考え方を理解することができる。 2. ☒ 教育課程・保育の全体的な計画（保育課程）および長期の指導計画をもとに子どもの実態に即した短期の指導計画を作成することができる。 3. ☒ D C A による保育の質の向上の考え方を学び、保育を評価・省察することができる。				
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％・修得確認：50％・授業態度：30％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭				
関連科目	実習対策、保育者論、保育原理、教育原理、保育教職実習実践				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	向谷地 紀子			実務経験	○
実務内容	幼稚園・認定こども園にて保育士、幼稚園教諭として13年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育における計画と評価の意義	保育における計画・評価の必要性について理解する。 教科書①第1章 教科書②要領・指針総則
2	カリキュラムの基礎理論	カリキュラムと何か、保育におけるカリキュラムの特性を学び、理解する。 教科書① 第1章
3	教育課程・保育課程の歴史と変遷	幼稚園教育要領・保育児保育指針の変遷を知る。 教科書① 第1章
4	社会の変化と保育に求められるもの	「育みたい資質・能力」「幼児教育の終わりまでに育てほしい10の姿」を学び、理解する。
5	幼稚園における計画	幼稚園における計画の特徴について知り、計画に活かせる。 教科書①第2章 教科書②幼稚園教育要領・総則
6	保育所・認定こども園における計画	保育所・認定こども園の計画の特徴について知り、理解する。 教科書①第2章 教科書②幼稚園教育要領・保育内容

7	教育課程編成の方法と手順	幼稚園の教育課程の編成の要件や実際の事例を検討し、学びを深める。 教科書①第3章 教科書②幼稚園教育要領・総則
8	教育課程編成の方法と手順	幼稚園の教育課程の編成の要件や実際の事例を検討し、学びを深める。 教科書①第3章 教科書②幼稚園教育要領・総則
9	子ども理解に基づく計画と評価	子どもの実態の捉え方、計画への生かし方を学び、理解する。 教科書①第1章・4章
10	指導計画におけるねらいと内容	指導計画におけるねらいと内容の意味や考え方について学び、理解する。 教科書①第4章 教科書②要領・指針総則
11	指導計画の作成と展開 (1) 一指導計画の基本	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について学び、理解する。 教科書①第5章 教科書②要領・指針総則
12	指導計画の作成と展開 (2) 一3歳未満児	0歳児の指導計画について学び、実際の作成に活かす。 教科書①第5章・6章 教科書②
13	指導計画の作成と展開 (2) 一3歳未満児	1歳児の指導計画について学び、実際の作成に活かす。 教科書①第5章・6章 教科書②
14	指導計画の作成と展開 (2) 一3歳未満児	2歳児の指導計画について学び、実際の作成に活かす。 教科書①第5章・6章 教科書②
15	修得確認	第1講～10講までのまとめを行う。
16	指導計画の作成と展開 (3) 一3歳以上児	3歳児の保育と指導計画について学び、実際の作成に活かす。 教科書①第5章・6章 教科書②
17	指導計画の作成と展開 (3) 一3歳以上児	4歳児の保育と指導計画について学び、実際の作成に活かす。 教科書①第5章・6章 教科書②
18	指導計画の作成と展開 (3) 一3歳以上児	5歳児の保育と指導計画について学び、実際の作成に活かす。 教科書①第5章・6章 教科書②
19	指導計画案の作成と展開 (4) 一その他の計画	行事の計画、食育計画、保健計画、安全計画等について学び、理解する。 教科書①第5章・6章教科書②
20	指導計画案の作成と展開 (4) 一その他の計画	行事の計画、食育計画、保健計画、安全計画等について学び、実際の作成に活かす。 教科書①第5章・6章教科書②
21	保育の省察および記録	省察の記録の意義、帳票や日誌の内容について知り、理解する。 教科書①第7章
22	保育の評価と改善	保育者の自己評価と園の自己評価、カリキュラム・マネジメントについて知り、理解する。 教科書①第8章 教科書②要領・指針総則
23	修得確認	第1講～15講までのまとめを行う。
24	修得確認	本科目の実施内容の修得状況の確認を行う。
25	総まとめ	【グループワーク】 あげられた課題を基に、計画・実践・評価を行い、保育の質の向上につなげる。
26	総まとめ	
27	総まとめ	
28	総まとめ	
29	総まとめ・修得確認	【テスト】1年間の学習の、修得確認を行う。
30	総まとめ・修得確認	1年間の学習を振り返る。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	教育の方法と技術		
必修選択	選択	(学則表記)	教育の方法と技術		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	広岡義之編著「新しい保育・幼児教育方法」 学習の手引き			出版社	ミネルヴァ書房

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児教育の変遷、幼児教育のあり方や支援の仕方を学び、その意義を理解する。				
到達目標	① 西洋と日本における保育と幼児教育の歴史的な流れを理解する。 ② 保育と幼児教育に関する基本事項を理解し、実践できる。 ③ 各種情報メディアの活用法について説明できる。 ④ これからの社会に対応できるような保育と幼児教育の在り方について考える事ができる。				
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％・修得確認：50％・授業態度：30％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	幼稚園教諭免許				
関連科目	幼児理解の理論と方法、保育原理、教育原理				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	豊田 順子			実務経験	○
実務内容	公立小学校・中学校、専門学校にてスクールカウンセラーとして10年勤務 (公認心理士・臨床心理士・学校心理士の資格保持)				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	西洋における幼児教育思想	第1章 1 (1)～(3) 西洋の幼児教育思想の歴史について学ぶ。
2	西洋における幼児教育思想	第1章 1 (4) 西洋の幼児教育思想の歴史について学ぶ。
3	日本における幼児教育思想	第1章 2 (1)～(3) 日本の幼児教育思想の歴史について学ぶ。
4	日本における幼児教育思想	第1章 2 (4) 日本の幼児教育思想の歴史について学ぶ。
5	保育・教育の方法	第2章 1 歴史を振り返りながら、保育方法の本質について考える。
6	保育・教育の方法	第2章 2・3 歴史を振り返りながら、保育方法の本質について考える。
7	子どもの発達と保育・教育	第3章 1 子どもの発達に応じた保育の在り方を考える。

8	子どもの発達と保育・教育	第3章 2 子どもの発達に応じた保育の在り方を考える。
9	環境と幼児教育	第4章 1・2 保育における環境の意義について学ぶ。
10	環境と幼児教育	第4章 3 保育における環境の意義について学ぶ。
11	子どもの生活や遊びと幼児教育	第5章 1 子どもにおける遊びの意義について学ぶ。
12	子どもの生活や遊びと幼児教育	第5章 2 子どもにおける遊びの意義について学ぶ。
13	保育・教育の形態	第6章 1・2 目的と状況に応じた保育・教育の形態について考える。
14	保育・教育の形態	第6章 3 目的と状況に応じた保育・教育の形態について考える。
15	修得確認	本科目の実施内容の習得状況の確認を行う。
16	指導計画とその実践	第7章 1 保育計画の立て方とその実践、及び評価と反省の仕方について学ぶ。
17	指導計画とその実践	第7章 2・3 保育計画の立て方とその実践、及び評価と反省の仕方について学ぶ。
18	子どもの理解と保育・教育の方法	第8章 1・2 子どもをより良く理解する為の方法について学ぶ。
19	子どもの理解と保育・教育の方法	第8章 3 子どもをより良く理解する為の方法について学ぶ。
20	保育・教育の記録の活用	第9章 保育・教育の記録を活かし、幼児教育の評価について学ぶ。
21	幼児教育と情報メディア（遊具編）	第10章 子どもの遊びの視点から、幼児教育・保育に活かすメディアの活用について学ぶ。
22	幼児教育と情報メディア（記録編）	第11章 保育記録の視点から、幼児教育・保育に活かすメディアの活用について学ぶ。
23	これからの幼児教育（1）	第12章 1・2 発達障害の特徴と特別支援教育について学ぶ。
24	これからの幼児教育（2）	第12章 3・4 現代社会が求める保育と幼児教育の課題について学ぶ。
25	これからの幼児教育（3）	第12章 5・6 多様な保育ニーズとそれに対する幼児教育のこれからの在り方について学ぶ。
26	修得確認	本科目の実施内容の習得状況の確認を行う。
27	総まとめ①	単元ごとのワークを行い学びを深める。
28	総まとめ②	単元ごとのワークを行い学びを深める。
29	総まとめ③ 修得確認	修得確認の総まとめの試験を受ける。
30	全体のまとめ	保育者としての心構えを持ち、成長し続けることのできる保育者について考える。

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	子どもの食と栄養Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	子どもの食と栄養Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	子どもの食と栄養 学習の手引き		出版社	中山書店	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	・食生活の意義、栄養の基礎知識、子どもの発育・発達と食生活の関連、食育の基本について、基礎から実践までを学ぶ。 ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深める。				
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身に付け、実践することができる。 2. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、子どもの心身の発達と食生活の関連について理解し、説明ができるようになる。 3. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と保育者としての関わり方を知り、適切な提案をしたり実施することができる。 4. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学び、個々にあった配慮、計画を立てることができる。				
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％・修得確認：50％・授業態度：30％ 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格				
関連科目	子どもの食と栄養Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	尾関 清子		実務経験		
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	子どもの健康と食生活①	第1章 3～6（p.10～21） 3. 朝食欠食の問題と対応を学ぶ。4. 偏食の弊害と対応を学ぶ。 5. 嘔まない子の問題と対応を学ぶ。6. 孤食の弊害と対応を学ぶ。			
2	食に関する基礎知識①	第2章 2～5（p.28～35） 2. 栄養の基礎知識を学ぶ。3. たんぱく質の代謝と栄養学的意義を知る。			
3	食に関する基礎知識①	第2章 2～5（p.28～35） 4. 糖質の代謝と栄養学的意義を理解する。5. 脂質の代謝と栄養学的意義を理解する。			
4	食に関する基礎知識②	第2章 6～8（p.36～41） 6. ビタミンの代謝と栄養学的意義を理解する。7. ミネラルの代謝と栄養学的意義を理解する。 8. 食物繊維と水分について知る。			
5	子どもの健康と食生活②／食に関する基礎知識③	第1章 1、2（p.2～9） 第2章 1、9、10（p.26～27、p.42～45） 第1章 1. 乳幼児の食生活の現状を知る。2. 乳幼児の栄養アセスメントを学ぶ。			
6	子どもの健康と食生活②／食に関する基礎知識③	第1章 1、2（p.2～9） 第2章 1、9、10（p.26～27、p.42～45） 9. 日本人の食事摂取基準の意義と活用を学ぶ。10. 妊婦・授乳期の食事摂取基準を学ぶ。			
7	子どもの発育・発達と栄養・食生活①	第3章 1～4（p.50～61） 1. 授乳・離乳の支援ガイドについて理解する。2. 乳幼児の咀嚼機能の発達と食事提供について学ぶ。			
8	子どもの発育・発達と栄養・食生活①	第3章 1～4（p.50～61） 3. 乳幼児の味覚機能の発達と食事提供について学ぶ。4. 乳幼児の消化吸収機能の発達と食事提供について学ぶ。			
9	子どもの発育・発達と栄養・食生活②	第2章 11（p.46） 第3章 5a（p.62～68） 第2章 11. 乳幼児の食事摂取基準について学ぶ。第3章 5. 乳児期栄養 a. 乳汁栄養について学ぶ。			
10	子どもの発育・発達と栄養・食生活③	第2章 11（p.46） 第2章 11. 乳幼児の食事摂取基準について理解する。			

11	子どもの発育・発達と栄養・食生活③	第3章 5b (p.69～73) 第3章 5. 乳児期栄養 b. 離乳食期栄養について学ぶ。
12	子どもの発育・発達と栄養・食生活④	第3章 6 (p.74～79) 6. 幼児期栄養について学ぶ。
13	子どもの発育・発達と栄養・食生活⑤	第2章 12 (p.47) 第2章 12. 学童・思春期の食事摂取基準について学ぶ。
14	食育の基本と実践	第4章 (p.88～107) 第4章 食育の基本と実践
15	修得確認	前期実施内容の修得確認を実施する
16	児童福祉施設や家庭における食と栄養	第5章 (p.110～115) 第5章 児童福祉施設や家庭における食と栄養について理解を深める。
17	食の安全	第6章 (p.118～133) 第6章 食の安全入力について学ぶ。
18	食の安全	第6章 (p.118～133) 第6章 食の安全について学ぶ。
19	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	第7章 1、2、10 (p.136～139、151～153) 1. 食物アレルギー 2. 鉄欠乏性貧血 10. 障がい児について理解を深める。
20	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②	第7章 4、5、6、7 (p.141～147) 4. 発熱 5. 体調不良 6. 急性胃腸炎 7. 便秘について学ぶ。
21	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③	第7章 3、8、9 (p.140、148～150) 3. 糖尿病 8. 肥満 9. やせについて理解を深める。
22	修得確認	今までの学習講の振り返りを受ける。
23	修得確認	今までの学習講の振り返りを受ける。
24	修得確認	修得確認を受ける。
25	修得確認	修得確認の振り返りを行う。
26	修得確認	食に関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、 子どもの心身の発達と食生活の関連について分野を決め、グループで考え、まとめる。
27	修得確認	
28	修得確認	グループワークの発表を行う。
29	修得確認	修得確認を受ける。
30	修得確認	1年間のまとめを行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	(前期)健康(後期)健康・スポーツ理論		
必修選択	選択	(学則表記)	健康		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	新訂 事例で学ぶ保育内容 <領域> 健康 これからの健康とスポーツの科学 学習の手引き (健康/健康・スポーツ理論)			出版社	萌文書林

科目の基礎情報②

授業のねらい	領域「健康」の指導に関する幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの事項について、知識や情報、事例等を通して理解を深めることにより、専門的な知識を身に付ける。				
到達目標	①幼児期の健康課題と発達の意味を理解できる。 ②幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解できる。 ③安全な生活と怪我や病気の予防を理解できる。 ④幼児期の運動発達と特徴と意義を理解できる。				
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％・修得確認：50％・授業態度：30％ 科目修得試験結果（合否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格、幼稚園教諭免許				
関連科目	健康指導法				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	赤江 香織 他1名			実務経験	○
実務内容	幼稚園にて教諭として3年勤務。保育園にて保育士として8年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	幼児教育の基本	幼児教育の捉え方について理解を深める。 教科書第1章、教育要領、保育指針、保育・教育要領
2	保育内容・領域「健康」	領域「健康」における目的と目標を理解する。
3		教科書第1章、教育要領、保育指針、保育・教育要領
4	子どもの育ちと領域「健康」	子どものさまざまな面における発育発達の進み方や順序について理解する。
5		教科書第2章、学習の手引き巻末資料
6	子どもの「健康」をめぐる現状と課題	最近の子どもたちの現状と運動能力について理解する。 教科書第3章、学習の手引き巻末資料
7	子どもの健康と遊び	子どもの健康と遊びのとの関連について理解する。
8		教科書第4章
9	園生活と生活習慣	基本的な生活習慣とその意義について理解する。 教科書第5章

10	子どもの健康 と安全教育	子どもの安全教育について理解する。 教科書第6章、学習の手引き巻末資料
11	幼児教育の現代的課題と領域 「健康」	領域「健康」における今日的課題について理解する。 教科書第7章
12		
13	科目まとめ	領域「健康」の指導に関する幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達などの事項について再度確認し、振り返りを実施する。
14	修得確認	修得確認を実施する。
15	科目まとめ	知識や情報、事例等を通して理解を深めることで、専門的な知識を身に付ける。
16	ライフスタイルと健康	健康を増進するためのライフスタイルを医療費や環境など社会的側面を含め総合的な視点で学ぶ。
17	生活習慣病について	生活習慣病や三大死因などの原因や特徴、基礎的知識の獲得。それらと運動との関連について学ぶ。
18		
19	肥満について	肥満の原因となる体脂肪の役割や肥満の測定方法など学び、改善策として代謝や運動、食事との関連について学ぶ。
20		
21	骨と運動	骨の役割と構造を理解し、骨の強化や骨の発達に応じた運動について学ぶ。
22	加齢について	サルコペニアが引き起こす身体問題や運動の重要性について学ぶ。
23		
24	子どもの体力と運動	現在の子どもを取り巻くスポーツ・運動の環境について学ぶ。
25		
26	色々な環境下で安全に運動を行う	色々な環境下で安全に運動を行う際の留意点を理解し、パフォーマンスとの関連を学ぶ。
27	ストレスと運動	運動がストレスをはじめ、心や脳に与える影響、効果や働きかけについて学ぶ。
28	まとめ	健康・スポーツとは、大きく分けると運動生理学やスポーツバイオメカニクス、筋パワーなどスポーツ科学的視点を学習してきた内容をまとめて理解する。
29	修得確認	修得確認を実施する
30	総まとめ	スポーツ外科やリハビリテーションなどのメディカルの視点に分けることを学習してきた内容を理解する。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	教育相談		
必修選択	選択	(学則表記)	教育相談		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	「スギ先生と学ぶ教育相談のきほん」 杉崎雅子著 学習の手引き			出版社	萌文書林 第2版

科目の基礎情報②

授業のねらい	教育相談は、子どもが集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。子どもの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。				
到達目標	①教育相談の意義と理論を説明できる。 ②教育相談をすすめる際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解し、実践できる。 ③教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を説明できる。				
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％・修得確認：50％・授業態度：30％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	幼稚園教諭免許・保育士資格				
関連科目	子どもの食と栄養Ⅰ、子どもの保健Ⅰ、保育の心理学Ⅰ、家庭支援論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	豊田 順子			実務経験	○
実務内容	公立小学校・中学校、専門学校にてスクールカウンセラーとして10年勤務 (公認心理士・臨床心理士・学校心理士の資格保持)				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	教育相談とは	教育相談の意義を考察する。（第1章）
2	子ども理解①	子どもの行動をどう理解するかを学ぶ。（第2章）
3	子ども理解②	子どもの行動をどう理解するかを学ぶ。（第2章）
4	保護者への支援①	保護者理解と支援の視点を学ぶ。（第3章）
5	保護者への支援②	保護者理解と支援の視点を学ぶ。（第3章）
6	カウンセリングマインド①	カウンセリングマインドについて理解する。（第4章）

7	カウンセリングマインド②	カウンセリングマインドについて理解する。（第4章）
8	カウンセリング技法①	カウンセリング技法を学ぶ。（第5章）
9	カウンセリング技法②	カウンセリング技法を学ぶ。（第6章）
10	教育相談体制	園内の教育相談体制について理解する。（第8章）
11	外部機関との連携	外部相談機関等との連携について理解する。（第9章）
12	保育者のメンタルヘルス	保育者のメンタルヘルスについて学ぶ。（第10章）
13	修得確認	教育相談の意義・重要性・基礎的知識・相談の進め方等、本科目の修得状況の確認を行う。
14	単元ごとの総まとめ	単元ごとのワークを行い学びを深める。
15	全体の総まとめ	教育相談の重要性について振り返る。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	幼児理解の理論と方法		
必修選択	選択	(学則表記)	幼児理解の理論と方法		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	乳幼児教育・保育シリーズ幼児理解の理論と方法 学習の手引き			出版社	光生館 2019 初版

科目の基礎情報②

授業のねらい	一人一人の子どもに対する理解を深め、幼児期にふさわしい具体的な指導や援助の方法を学ぶ。				
到達目標	①「子どもを理解する」とはどのようなことを説明できる。 ②「子ども理解」を深めるための様々な方法について学び、現場で実践できる。 ③専門機関等の連携や子育て支援、家庭支援について理解を深め、実践できる。				
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％・修得確認：50％・授業態度：30％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	幼稚園教諭免許・保育士資格				
関連科目	保育教育実習・教育相談・保育の心理学・家庭支援論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	赤江 香織			実務経験	○
実務内容	幼稚園にて教諭として3年勤務。保育園にて保育士として8年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	子どもを理解するということ①	序章・第1章幼稚園教育と幼児理解の大切さを理解する。
2	子どもを理解するということ②	第2章 理解するとはどのような事か理解を深める。
3	子どもの発達と遊び①	第3章 子どもの発達や学びの理解ー理論と方法について理解する
4	子どもの発達と遊び②	第4章 遊びと幼児理解の関係を知る。
5	保育者の基本姿勢と保幼小接続①	第5章 幼児理解を深める保育者の基本的姿勢を学ぶ。
6	保育者の基本姿勢と保幼小接続②	第6章 保幼小をつなぐ理解ー幼児理解と児童理解について理解を深める。
7	子ども理解を深める観察と記録	第7章 幼児理解の目的と方法について学ぶ。 第8章 保育の実践のための記録について学ぶ。
8	クラス集団の理解と指導	第9章 クラス集団の理解と指導について学ぶ。 第15章 映像教材を活用した授業の展開ー③5歳児の授業の展開について考察する。

9	「つまずき」の理解とその対応①	第11章 幼児のつまずきの理解とその対応について学ぶ。
10	「つまずき」の理解とその対応②	第15章 映像教材を活用した授業の展開－①②3,4歳児の授業の展開について考察する。
11	保育者の自己理解と園内研修	第10章 保育者の自己理解と保育の改善について学ぶ。 第12章 幼児理解を磨く場としての園内研修について理解を深める。
12	保護者との連携と理解	第13章 保護者との連携について学ぶ。 第14章 事例を通して幼児理解とその対応を学ぶ。
13	修得確認	子ども理解の視点や具体的な方法、保護者支援の方法などこれまでの学習内容について修得状況の確認を行う。
14	単元ごとの総まとめ	単元ごとの振り返りやワークを行い学びを深める。
15	全体の総まとめ	幼児理解の重要性について振り返る。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	障害児保育		
必修選択	選択	(学則表記)	障害児保育		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	障害児保育ワークブックインクルーシブ保育・教育をめざして		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場における特別な支援の必要性和支援の方法を理解する。				
到達目標	障がい児を含め特別な支援の考え方を保育現場で生かす方法を具体的に述べることができる。 保育者として心得ておくべき支援方法について述べるができる。 能動的学習を意識し、積極的に発言できる。				
評価基準	修得確認（テスト）、ワークシート：60％ 授業態度：40％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格、幼稚園教諭免許				
関連科目	保育原理、保育者論、社会福祉、児童家庭福祉、社会的養護、家庭支援論、特別支援論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	豊田 順子			実務経験	○
実務内容	公立小学校・中学校、専門学校にてスクールカウンセラーとして10年勤務 (公認心理士・臨床心理士・学校心理士の資格保持)				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	1.なぜ特別な支援が必要なのか①	障がい児から特別な支援への背景を学ぶ。 子どもたちに必要な支援と特別な支援について考える。
2	1.なぜ特別な支援が必要なのか②	診断がつかない特別な支援が必要な子どもについて学ぶ。 家庭支援が必要な子どもの状況とその背景を理解する。
3	2.発達を理解する①	ふつうや標準を理解する意味を学ぶ。 【ワーク】自分の発達（能力）を3つに分類する。P31
4	2.発達を理解する②	【ワーク】自分の発達（能力）グループで発表する。P29 発達検査について学ぶ。P30
5	3.発達の違いを理解する③	発達の違いと個人差についての考え方を学ぶ。 発達の偏りについての理解する。
6	3.発達の違いを理解する④	発達の仕方のイメージを持つ。 【ワーク】自分の素質と環境を記述し、グループ発表する。P41
7	4.障がいの特性を理解する①	肢体不自由児と知的障がい児について学ぶ。 【ワーク】実習等で出会った障がいのある子どもを発表する。
8	4.障がいの特性を理解する②	視覚、聴覚障がい、病弱虚弱、言語障害等について学ぶ。 【ワーク】病児の家族支援例についてグループで話し合う。P53

9	5.障がいの特性を理解する③	発達障がいの定義を学び、ASDの理解を深める。
10	5.障がいの特性を理解する④	ADHDとLDの理解を深める。
11	修得確認 6.支援方法を理解する①	【修得確認】特別な支援と障がいの特性について試験を受ける。 特別支援の5つの視点を学び、心の支援を理解する。
12	6.支援方法を理解する②	心の支援について理解を促し、自尊感情の重要性を知る。 【ワーク】自尊感情を育むための支援をグループ討議する。P75
13	7.支援方法を理解する③	らせん状とスモールステップについて学ぶ。 【ワーク】スキップの支援を学び、グループで話し合う。P82
14	7.支援方法を理解する④	自尊感情を尊重した個別支援の重要性を学ぶ。 【ワーク】運動、言語、協調など苦手への支援方法を考える。
15	修得確認	【修得確認】保育現場における特別な支援の具体例、 特別な支援の必要性の試験を受ける。
16	8.支援方法を理解する⑤	困った行動の意味とコミュニケーションの方法を学ぶ。 【ワーク】適切なコミュニケーションを考える。P91(1)または(2)
17	8.支援方法を理解する⑥	褒め方・叱り方、子どもに合ったよい支援を実感し理解する。 【ワーク】ロールプレイで支援を体験する。P95
18	9.支援方法を理解する⑦	物や時間の認知のつまづきと構造化による環境整備について学ぶ。 【ワーク】生活に役立つ見える化カードか、保育室の構造化を考える。
19	9.支援方法を理解する⑧	【ワーク】生活に役立つ見える化カードか保育室について発表する。 ケーススタディによる支援方法を理解する。
20	10.支援方法を理解する⑨	周囲との連携とサポートネットのイメージを持つ。 【ワーク】自分のサポートネットを作成する。P112または末巻資料
21	11.支援の方法を 理解する⑩	地域資源サポートネットワークについて理解する。 【ワーク】小学校に伝えたい事柄についてグループワーク。P121
22	11.支援の方法を考える 実践ワーク②	自尊感情と感覚の違いについて理解する。 【ワーク】自分を大切に感じられる体験を考察し、発表する。P127
23	11.支援の方法を考える 実践ワーク③	コミュニケーション、集団適応、生活、運動、学習の支援を学ぶ。
24	12.個別の教育支援計画をつくる	個別の支援計画作成について理解する。
25	修得確認	【修得確認】具体的支援、支援における配慮についての試験を受ける。 次回ケーススタディの予習とワークの持ち物を理解する。
26	13.ケーススタディ	子どもの感覚について理解する。 【ワーク】小麦粉粘土を実際に体験する。P145
27	14.保護者支援と今後の課題①	保護者の気持ちに気づき、保護者支援の実践例を学ぶ。 【ワーク】兄弟支援の具体的例をグループで考え発表する。P156
28	14.保護者支援と今後の課題②	ユニバーサルデザインについて考える。 【ワーク】ユニバーサルデザインに気き理解を深める。P157
29	修得確認	【修得確認】その子らしさを引き出す保育の重要性、特別な支援が必要な子どもへの 保育者としての配慮、家族支援の必要性について試験を受ける。
30	まとめ	修得確認用紙を返却される。 1年間のまとめを行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	子どもの音楽Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの音楽Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	60
使用教材	こどものうた200、続こどものうた200		出版社	チャイルド本社、チャイルド本社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で必要とされる子どもの歌を理解し、弾き歌いを出来るようにする。		
到達目標	保育者として必要な音楽技能、技術を身につける。		
評価基準	授業態度20％ 修得確認（実技）50％ 学期末修得確認（実技）30％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許		
関連科目	子どもの音楽ⅠA・子どもの音楽ⅠB・子どもの音楽Ⅲ・子どものリトミックA・子どものリトミックB		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	永井 智子	実務経験	○
実務内容	音楽教室の運営19年。保育、福祉施設にて定期的に演奏活動やワークショップなど開催。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	季節の歌（春）	春の歌を習得する。
2	季節の歌（春）	
3	行事の歌（春）	春の行事の歌を習得する。
4	行事の歌（春）	
5	園生活の歌	園生活の歌を習得する。
6	園生活の歌	

7	うたあそび・みんなのうた	続こどものうたより、うたあそびなどよく歌われる歌を習得する。
8	うたあそび・みんなのうた	
9	季節の歌（夏）	夏の歌を習得する。
10	季節の歌（夏）	
11	行事の歌（夏）	
12	行事の歌（夏）	
13	うたあそび・みんなのうた	続こどものうたより、うたあそびなどよく歌われる歌を習得する。
14	うたあそび・みんなのうた	
15	学期末修得確認	前期のまとめとして練習曲2曲を発表する。
16	季節の歌（秋）	秋の歌を習得する。
17	季節の歌（秋）	
18	行事の歌（秋）	
19	行事の歌（秋）	
20	うたあそび・みんなのうた	続こどものうたより、うたあそびなどよく歌われる歌を習得する。
21	うたあそび・みんなのうた	
22	うたあそび・みんなのうた	
23	うたあそび・みんなのうた	
24	季節の歌（冬）	冬の歌を習得する。
25	季節の歌（冬）	
26	行事の歌（冬）	
27	行事の歌（冬）	
28	うたあそび・みんなのうた	卒園式の歌などを習得する。
29	うたあそび・みんなのうた	
30	学期末修得確認	後期のまとめとして練習曲2曲を発表する。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	運動あそび		
必修選択	選択	(学則表記)	運動あそび		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	1	30
使用教材	0～5歳児の発達に合った楽しい！運動遊び		出版社	ナツメ社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児期に必要な運動遊びは何かを学び、現場で使える力を身につけることができる。		
到達目標	・乳幼児期に必要な基本運動を理解することができる。 ・心身の成長を促すことができる発育発達に応じた運動遊びを身につけることができる。 ・各種遊具を用いた安全管理の基本や楽しく実践するための指導法を身につけることができる。		
評価基準	小テスト、課題レポート：20％ 修得確認：30％ 授業態度と参加の積極性：50％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許		
関連科目	子どもの運動支援		
備考	原則、対面授業形式にて実施する		
担当教員	田村 成	実務経験	○
実務内容	公立・私立の幼稚園、保育園にて運動あそびの指導（30年）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の内容及び進め方について
2	からだを使って遊ぶ1	全身運動について学ぶ①
3	からだを使って遊ぶ2	全身運動について学ぶ②
4	からだを使って遊ぶ3	鬼遊びの内容と指導法について学ぶ①
5	からだを使って遊ぶ4	鬼遊びの内容と指導法について学ぶ②
6	マットを使った遊び1	マットを用いた遊びの安全管理・補助法について学ぶ
7	マットを使った遊び2	マットを用いた遊びの導入法・指導法について学ぶ①
8	マットを使った遊び3	マットを用いた遊びの導入法・指導法について学ぶ②
9	鉄棒を使った遊び1	鉄棒を用いた遊びの安全管理・補助法について学ぶ

10	鉄棒を使った遊び 2	鉄棒等を用いた遊びの指導・幫助法について学ぶ①
11	鉄棒を使った遊び 3	鉄棒等を用いた遊びの指導・幫助法について学ぶ②
12	ボールを使った遊び 1	ボール遊びの導入法・安全管理、いろいろな動きについて学ぶ
13	ボールを使った遊び 2	ボール遊びの指導法について学ぶ
14	ボールを使った遊び 3	ボール遊びを考案し共有する。
15	修得確認	ここまでの行った補助法・幫助法の修得確認を実施する
16	跳び箱を使った遊び 1	跳び箱を用いた遊びの安全管理、補助法について学ぶ
17	跳び箱を使った遊び 2	跳び箱等を用いた遊びの指導・幫助法について学ぶ①
18	跳び箱を使った遊び 3	跳び箱等を用いた遊びの指導・幫助法について学ぶ②
19	なわを使った遊び 1	なわを用いた遊びの指導・幫助法について学ぶ
20	なわを使った遊び 2	長なわを用いた遊びの指導・幫助法について学ぶ
21	なわを使った遊び 3	短なわを用いた遊びの指導・幫助法について学ぶ
22	集団遊び 1	集団で行われる運動遊びの内容と指導法について学ぶ①
23	集団遊び 2	集団で行われる運動遊びの内容と指導法について学ぶ②
24	器具を使った遊び 1	サーキット遊びの内容と安全管理、指導法について学ぶ①
25	器具を使った遊び 2	サーキット遊びの内容と安全管理、指導法について学ぶ②
26	実技修得確認	ここまでの行った補助法・幫助法の修得確認を実施する
27	運動遊び指導の実践 1	運動遊びの指導案の作成について学ぶ
28	運動遊び指導の実践 2	運動遊びの発表（模擬保育）①
29	運動遊び指導の実践 3	運動遊びの発表（模擬保育）②
30	まとめ	本授業の目標・テーマに基づいて振り返り、まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	実習対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	実習対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	4	60
使用教材	各校裁量(幼稚園・保育園実習まるわかりガイド) 施設実習パーフェクトガイド		出版社	ナツメ社 わかば社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で必要とされる人材になる。				
到達目標	実習生として子どもたちの前に立つ責任とやりがいを理解することができる。 実習生に必要な「話す、動く、書く、作る」技術を身に付け、必要な準備をして実習に参加する。 施設実習について理解し、実習生として必要な知識を学ぶ。				
評価基準	提出物・指導案・実習グッズ作品：60％ 授業態度：40％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	音楽Ⅱ、音楽Ⅲ、保育課程論、保育原理、保育者論、保育カリキュラム論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	向谷地 紀子			実務経験	○
実務内容	幼稚園・認定こども園にて保育士、幼稚園教諭として13年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	【実習の基本確認】 実習の種類と目的①	・必要な単位と実習期間・実習先を確認する。 ・実習の目標と心構えを学ぶ。
2	【実習の基本確認】 実習の種類と目的①	・幼稚園と保育園、それぞれ1日の活動内容を理解する。 ・事前必要書類・オリエンテーション・お礼状について知る。
3	【実習の準備】 実習日誌、指導案の作成②	【ワーク】子どもの発育・発達の特徴をグループで発表する。
4	【実習の準備】 実習日誌、指導案の作成②	・保育記録・実習日誌の書き方について学ぶ。 ・部分実習、責任実習など、実習の種類について理解する。
5	【実習の準備】 実習日誌、指導案の作成②	年齢に合わせた指導案の立て方を理解し、考案する。
6	【実習の準備】 実習日誌、指導案の作成②	年齢に合わせた指導案の立て方を理解し、考案する。
7	【実習の準備】 実習日誌、指導案の作成②	年齢に合わせた指導案の立て方を理解し、考案する。
8	【実習の準備】 絵本の読み聞かせ③	【ワーク】年齢にそった手遊び・絵本を選び、発表する。

9	【実習の準備】 絵本の読み聞かせ③	【ワーク】年齢にそった手遊び・絵本を選び、発表する。
10	【実習の振り返り】 実習に行つての振り返りの作成	【ワーク】実習へ行つての個人の振り返りと、グループでの振り返り、次につながる課題を作成し、発表する。
11	【実習の基本確認】 実習の種類と目的⑤	・教育実習に向けての心構えを確認する。 【ワーク】保育園と幼稚園の違い・関わり方の違いについて、グループで話し合う。
12	【実習の準備】 指導案の作成⑥	幼稚園の子どもたちの年齢に合わせた活動を考え、指導案を立てる
13	【実習の準備】 指導案の作成⑥	幼稚園の子どもたちの年齢に合わせた活動を考え、指導案を立てる
14	【実習の準備】 指導案の作成⑥	幼稚園の子どもたちの年齢に合わせた活動を考え、指導案を立てる
15	【実習の準備】 実習グッズの作成⑦	実習に必要なグッズを作成する。
16	【実習の準備】 実習グッズの作成⑦	実習に必要なグッズを作成する。
17	【実習の準備】 実習グッズの作成⑦	実習に必要なグッズを作成する。
18	【実習の振り返り】 実習へ行つての振り返り作成④	【ワーク】実習へ行つての個人の振り返りと、グループでの振り返り、次につながる課題を話し合う。
19	【実習の振り返り】 実習研究発表会の準備⑧	【ワーク】実習研究発表会に向けて、グループでPPTを作成する。
20	【実習の振り返り】 実習研究発表会の準備⑧	【ワーク】実習研究発表会に向けて、グループでPPTを作成する。
21	【実習の振り返り】 実習研究発表会の準備⑧	【ワーク】実習研究発表会に向けて、グループでPPTを作成する。
22	【次年度実習に向けて】 児童福祉施設の理解⑨	【ワーク】様々な施設についてグループで調べ、発表する。 ・児童福祉施設の種類と役割について理解する。
23	【次年度実習に向けて】 児童福祉施設の理解⑨	【ワーク】施設の入所者との関わり方を、グループで話し合い、学ぶ。P116～P122
24	【次年度実習に向けて】 児童福祉施設の日誌の作成⑩	保育園・幼稚園との日誌の書き方の違いについて理解し、ポイントを知る。P90～P99
25	【次年度実習に向けて】 児童福祉施設の日誌の作成⑩	保育園・幼稚園との考察の書き方の違いについて理解し、ポイントを知る。P92～P105
26	【次年度実習に向けて】 児童福祉施設の日誌の作成⑩	部分実習・責任実習・レクレーションなどの指導案を立てる。P106～P111
27	【次年度実習に向けて】 必要書類作成⑪	次年度実習に必要な書類の作成をする。
28	【次年度の実習に向けて】 保育技術確認⑫	ペープサートの作成をする。
29	【次年度の実習に向けて】 保育技術確認⑫	ペープサートの発表をする。
30	【次年度の実習に向けて】 まとめ⑬	・3年次の実習までのスケジュールを伝える。 ・まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの医療Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの医療Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	基本から実践まで！！すぐに役立つ医療保育実践マニュアル			出版社	診断と治療社

科目の基礎情報②

授業のねらい	小児医療現場での保育者の役割を理解する				
到達目標	小児医療現場と保育現場に共通する保育士の役割を述べることができる。 入院中の子ども達の保育プランを考えることができる。 能動的学習を意識し、積極的に発言できる。				
評価基準	修得確認（テスト）と提出物：60% 授業態度：40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格				
関連科目	子どもの医療Ⅱ、入院中の子どものケア、病児保育、小児医療				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	赤江 香織			実務経験	○
実務内容	幼稚園にて教諭として3年勤務。保育園にて保育士として8年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	医療保育を知る	・医療保育の目的と意味を理解する。 ・授業の全体像と今後の学びを知る。
2	AⅠ、医療現場での保育 ねらいと役割の理解	・入院中の子どものQOL向上の意味を知る。 ・入院中の子どもと家族の状況と支援目標を理解する。
3	AⅡ、病棟保育士の活動と 業務を知る	・病棟保育士に必要な医療用語を知る。 ・連携する医療スタッフを把握する。
4	AⅢ、病棟保育士の業務理解	・1日のスケジュールをイメージする。 ・保育園の保育士との違いを理解する。
5	AⅣ、病院での保育活動①	・保育する上での留意事項を理解する。 ・病院で保育するための環境構成を考える。
6	AⅣ、病院での保育活動②	・病院で保育するために必要な情報項目を理解する。 ・各項目の意味を理解する。
7	AⅣ、病院での保育活動③	・プレイルームでの集団保育の意味と医療的留意点を理解する。 ・車椅子と点滴を考慮したプレイルームを考える。【提出】プレイルーム作成

8	AIV. 病院での保育活動④	・ 集団保育ができない子どもの状況を理解し、適した個別保育を考える。
9	AIV. 病院での保育活動⑤	・ 病室でできる遊びとベット上でできる遊びを考える。 【提出】 ベット上でできる遊びの企画書、または指導案の作成
10	AIV. 病院での保育活動⑥	・ 病棟でのイベントの目的と医療的留意点を理解する。 ・ 患者である子どもが参加しやすいイベントを考える。【提出】 イベント企画
11	AV. 生活援助と家族支援①	・ 入院中の生活支援と保育士としてのケアを学ぶ。
12	AV. 生活援助と家族支援②	・ 食事の留意点と病院での食事の意味を理解する。保育現場での食事との違いを考える。
13	AV. 生活援助と家族支援③	・ 入院中の子どもの排泄、歯磨きや手洗い、睡眠の援助と留意点を理解する。 ・ 医療機器や点滴へ配慮した着脱衣とプライバシーへの留意点を理解する。 ・ 保育士に求められる家族支援を理解し、兄弟支援の方法と留意点を考える。
14	AVI. 保育活動中に起こりうる事故と安全対策	・ 事故が起こりうる場所と場面を理解する。 ・ 感染防止のための洗浄と効果を知る。
15	修得確認	・ これまでの学びをまとめ、知識を整理するために試験を受ける。
16	BI. 保育記録マニュアル①	・ 医療的視点での記録と保育士視点での記録の違いを理解する。
17	BI. 保育記録マニュアル②	・ 伝えたい内容、残したい内容を考える。 ・ 医療現場での保育計画を考える。
18	BII. 症例別にみた保育支援①	・ 下記の症例と状況、年齢を考慮し、必要な保育支援と保育内容を考える。
19	BII. 症例別にみた保育支援②	1.クローン病の治療のために入院した12歳10か月女児
20	BII. 症例別にみた保育支援③	2.アトピー性皮膚炎の治療のため入院となった1歳8か月男児 3.気管支喘息で緊急入院となった3歳6か月男児 4.先天性心疾患により出生時より入院している3か月女児 5.心房中隔欠損症の心内修復術を受ける7歳2か月女児
21	BII. 症例別にみた保育支援④	・ 下記の症例と状況、年齢を考慮し、必要な保育支援と保育内容を考える。
22	BII. 症例別にみた保育支援⑤	6.ネフローゼ症候群の治療のため入院となった2歳9か月男児 7.急性リンパ性白血病と診断された6歳3か月女児 8.細気管支炎のため緊急入院となった2歳3か月男児 9.内服コントロールのため入院となった重症心身障がい児6歳7か月男児 10.虐待を疑われた4歳10か月男児
23	BII. 症例別にみた保育支援⑥	・ 下記の症例と状況、年齢を考慮し、必要な保育支援と保育内容を考える。
24	BII. 症例別にみた保育支援⑦	11.川崎病で緊急入院となった自閉症スペクトラム症5歳6か月男児 12.未熟網膜症の手術のため入院した6か月女児 13.上腕骨顆上骨折で入院となった7歳1か月女児 14.口蓋扁桃肥大によりアデノイド摘出手術を受ける6歳6か月男児 15.在宅移行する低酸素性虚血性脳症の9か月男児
25	BII. 症例別にみた保育支援⑧	・ 小児医療現場で連携が必要な職種を理解する。
26	BII. 症例別にみた保育支援⑨	・ チーム医療における保育士の在り方を考える。
27	CI. 多職種との連携について	・ 病棟保育士に必要な知識と技術を理解する。
28	CII. 医療現場における保育士教育	・ 病棟保育士の現状と課題について学ぶ。
29	修得確認	・ これまでの学びをまとめ、知識を整理するために試験を受ける。
30	まとめ	修得確認用紙を返却される。 1年間のまとめを行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	入院中のこどものケア		
必修選択	選択	(学則表記)	入院中のこどものケア		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	医療を受ける子どもへの上手な関わり方			出版社	日本看護協会出版会

科目の基礎情報②

授業のねらい	病棟保育士が対応できることは何かを考え、子どもの発達や心理を理解した保育的支援を理解する。 医療を受ける子どもへの配慮とかかわりを理解し、保育現場でのより細やかな支援につなげる。				
到達目標	チャイルドライフスペシャリストを理解することで、医療現場における保育者の使命と役割を知る。 グループワークや実践を通して、能動的な学習と課題研究の姿勢を身に付ける。				
評価基準	修得確認（テスト）：50％ ワークシート：20％ 授業態度：30％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	病児保育論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	赤江 香織			実務経験	○
実務内容	幼稚園にて教諭として3年勤務。保育園にて保育士として8年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	1、子ども・家族中心の医療がなぜ必要なのか	・医療を受ける子どもの思いと家族の思い・チャイルドライフプログラム、小児医療における「子ども・家庭中心医療」について習得する。
2	療養環境の工夫P.12-14	・子どもに病院はどう見えるのか、子ども視点で考える。 ・発達の理解（乳幼児期は学習済みのため確認のみ）について学ぶ。
3	①病棟の工夫 ②プレイルームの工夫	・子どもが安心できる居場所作りの必要性和工夫、プレイルームの活用方法について学ぶ。
4	③処置室の工夫 ④手術室の工夫	・子どもの視点での環境整備、恐怖心を取り除く工夫（なぜ怖いのかを考える）について学ぶ。
5	⑤画像検査室の工夫 ⑥待合室の改善	・子ども視点での環境整備、待合室の環境整備プラン作成について学ぶ。
6	発達段階に応じたかかわり方 ①泣きやまない赤ちゃんへの対応	・乳児期の子どもの発達と援助方法のについて学ぶ。
7	②限られた時間の中での遊びの工夫	・乳児期の遊びの確認と医療現場への活かし方について学ぶ。
8	③子どもへのかかわり方に自信がない母親への支援 ④不安やストレスを抱える子どもの反応と支援	・子どもの入院に伴う母親の心情理解、入院中のストレスとコーピングについて学ぶ。
9	⑤入院中の子どもにとっての遊びの意義とポイント ⑥不用意な言葉で子どもを叱る母親への介入	・入院中の子どもの遊び、病気や治療についての子どもの受け止め方について学ぶ。
10	⑦入院で学校生活から長く離れている子どもへの支援 ⑧1日中一人でゲームを行っている子どもへの対応	・学習環境の整備と支援、学校との連携、学童期の子どもの理解について学ぶ。
11	⑨家族や友人を亡くした子どもへの対応 ⑩子どもの治療の選択、意思決定参加への支援	・発達段階によるいのちへの理解と正しい説明・いのちに関する絵本の考察・子どもの意思決定への見極め・情報提供後の精神的フォローについて学ぶ。
12	⑪一人で部屋に閉じこもっている子どもへの対応 ⑫弱音を吐かずがんばっている子どもへの支援	・思春期の子どものプライバシーとコミュニケーション、思春期の子どもに適した支援と環境設定について学ぶ。

13	きょうだい支援 ①学校へ行きたくないきょうだいへの支援	・きょうだいの支援と親との連携、家族のコミュニケーション支援について学ぶ。
14	②きょうだいへの病気や治療についての伝え方 ③面接が制限されているきょうだいへの支援	・きょうだいへの正しい情報提供と配慮、きょうだいとのコミュニケーション支援について学ぶ。
15	修得確認	【修得確認】入院中の子どもの状況、心境を理解し、その場の配慮についての試験を受ける。
16	子どもへの説明とプリバレーション	・説明の種類、プリバレーションの段階別理解について学ぶ。
17	子どもへの病気・検査・治療などの説明 ①子どもへの説明と親への支援 ②説明の時期とタイミング	・子どもの不安軽減と親の心理、発達段階に応じた説明とタイミングについて学ぶ。
18	③説明時の言葉の選び方 ④痛みについての説明	・子どもへの言葉と配慮、恐怖の軽減、治療の説明の実践について学ぶ。
19	⑤ツール活用時の工夫 ⑥検査や手術の説明	・発達段階における適したツールと説明方法、恐怖心軽減ための工夫について学ぶ。
20	検査・処置中の支援 ①処置を嫌がる子どもへの対応	・処置のプリバレーションと処置室の環境整備について学ぶ。
21	②処置の際の声かけ	・子ども視点での配慮と声かけについて学ぶ。
22	③痛みを伴う検査や処置中の支援 ④子どもが部屋で一人になる検査・治療の支援	・心の準備のための痛みの正しい理解と伝え方、孤独感軽減のための対策について学ぶ。
23	⑤限られた時間内でのかわり ⑥親の処置参加	・緊急な対応での子ども支援、親の心情理解と対応について学ぶ。
24	日常生活の援助 ①バイタルサインの測定	・バイタルサイン測定の理解、安心感を与えるツールの工夫と言葉の実践について学ぶ。
25	②内服の促し ③面会終了時に泣き出す子どもへの対応	・内服薬と内服補助グッズの理解、親との分離による恐怖感と罪悪感からの支援について学ぶ。
26	④排泄の援助 ⑤清潔ケア	・自尊心を尊重しながらの援助方法、テープ交換の実践について学ぶ。
27	⑥発達障害のある子どもへの対応	・自閉症の特徴の確認と入院生活上の留意点、視覚的支援方法の工夫について学ぶ。
28	多職種連携 ①多職種連携の方法 ②放射線部門と多機能連携	・小児病棟に関わる職種の理解・多職種間の円滑材となるための工夫と援助について学ぶ。 ・小児病棟と他部門の医療スタッフとの連携について学ぶ。 ・子どもの不安軽減のための配慮について学ぶ。
29	修得確認	【修得確認】病院での保育士の役割についての試験を受ける。
30	まとめ	修得確認の振り返りと1年間のまとめを行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	4	60
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場働く保育者として・社会人として必要とされる基礎知識を身に付ける。				
到達目標	社会人としての基礎的なマナーを身に付ける。 実習先で必要とされるマナーや立居振舞を身に付ける。 進級した際にスムーズに就職活動に取り組めるような状態にする。				
評価基準	試験：40％、提出物：30％、授業態度：30％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	実習対策Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	吉田 茜			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的とゴール像をイメージする。 今後2年間の学校生活の流れと、行うべき事を理解する。
2	実習に向けて①	保育現場や医療現場で必要とされる人材の身だしなみについて理解する。
3	実習に向けて②	実習先で心がけるマナーや立居振舞について理解する。
4	実習に向けて③	実習先で心がけるマナーや立居振舞について理解する。
5	実習に向けて④	実習について考え、実習の準備をする。
6	実習に向けて⑤	実習について考え、実習の準備をする。
7	コミュニケーションについて①	指示の受け方、報告・連絡・相談の仕方、失敗への対処と注意の受け方を理解する。
8	コミュニケーションについて②	電話のマナーと話し方を理解し、かけ方・受け方・取次のポイントを学ぶ。

9	コミュニケーションについて③	電話のマナーと話し方を理解し、かけ方・受け方・取次のポイントを学ぶ。
10	まとめ	実習でのマナーとコミュニケーションについてまとめを行う。
11	実習に向けて①	実習グッズの作成
12	実習に向けて②	実習グッズの作成
13	実習に向けて③	実習グッズの作成
14	まとめ	前期の内容のふりかえりとまとめを行う。
15	まとめ	前期の内容のふりかえりとまとめを行う。
16	コミュニケーションについて⑥	社会人として必要な来客対応の方法を理解する。
17	コミュニケーションについて⑦	慶事の種類やTPOに合う服装、マナーを理解する。
18	実習に向けて①	実習について考え、実習の準備をする。
19	実習に向けて②	実習について考え、実習の準備をする。
20	社会人基礎力について	スケジュールリングについて
21	社会人基礎力について	人前で話すスキルを理解する。
22	就職活動に向けて①	就職試験の種類について理解する。
23	就職活動に向けて②	自己分析をする
24	就職活動に向けて④	自己分析をする
25	【調整】 社会人と現場体験のフォロー	・社会人と保育者の基本、実習準備について、不足している部分を学ぶ。
26	【調整】 社会人と現場体験のフォロー	・社会人と保育者の基本、実習準備について、不足している部分を学ぶ。
27	修得確認	後期の内容の振り返りとまとめを行う。
28	修得確認	後期の内容の振り返りとまとめを行う。
29	就職活動実践①	就職活動の具体的な計画を立てる。
30	総まとめ	1年間の総まとめを行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療事務Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	医療事務Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	6	90
使用教材	①診療報酬点数早見表②カルテ問題集③薬価表④早見表 ⑤医療事務テキストⅠ・Ⅱ⑥検定過去問題集		出版社	①医学通信社②～⑤ユアサポート ⑥全国医療事務教育協議会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	点数表を読み内容が理解でき、様々な算定に対応できる力を習得する 医療事務の仕事について理解し、日本の医療制度や健康保険法を中心に医療の現場に必要な知識を習得する				
到達目標	医療事務の仕事について述べることができる 点数表を読み込み、レセプトの作成ができる 日本の医療制度や健康保険法などの現場に必要な知識を述べるができる				
評価基準	【前期・後期ともに】 評価テスト30% 小テスト20% 提出物30% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	医療事務検定2級、医療事務検定1級				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	松下 尚子			実務経験	○
実務内容	病院・クリニックでの医療事務員経験(23年)				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	医療保険の概要	医療事務とは (仕事内容、年間授業内容、履修目的、検定日程等)
2	受付事務と請求事務	・日本の医療制度、医療保険の仕組み ・社保、国保、医療法、健康保険法について ・保険証カルテ上書き、レセプト上書き
3	診療報酬の算定 基本診療料	・点数表の構成と見方 ・初診料・再診料
4	基本診療料	・外来診療料
5	医学管理等	・特、薬情など外来算定のもの中心に実施
6	医学管理等 在宅医療	・外来算定のもの中心に実施 ・往診料

7	在宅医療	・在宅療養指導管理料 (テキストⅡ、カルテ問題集中心に)
8	投薬	・薬剤の種類、薬価の引き方 ・薬剤料の計算方法 ・投薬料の算定 薬剤料
9	投薬	・投薬料の算定 調剤料、処方料 ・調剤技術基本料
10	投薬	・処方箋料 ・その他 ビタミン剤の算定、うがい薬の算定
11	注射	・薬剤料 ・注射実施料(手技料) I M、I V
12	注射	・注射実施料(手技料) その他の注射 ・注射手技料の加算 ・特定保険医療材料 その他
13	処置	・処置料の共通事項 ・処置料の区分の算定 一般処置 熱傷処置 まで
14	処置	・処置料の算定
15	まとめ：外来レセプト作成	・処置料までのレセプト作成
16	手術	・処置との違い ・手術料の共通事項
17	手術、輸血、麻酔	・手術料 ※主な手術(テキストⅡ、カルテ例題集中心) ・麻酔・輸血料 ・時間、年齢加算
18	手術・麻酔 小まとめ	・手術・麻酔 小まとめ
19	検査 検体検査料	・検体検査の共通事項 ・検体検査実施料
20	検査 検体検査料・生体検査料	・緊検、包括算足 ・生体検査の共通事項 ・生体検査実施料
21	病理診断	・病理診断の共通事項 ・病理診断、判断料 ・病理標本作成
22	画像診断	・画像診断の共通事項 ・エックス線診断料 単純撮影
23	画像診断	・エックス線診断料 造影撮影、特殊撮影 ・コンピューター断層撮影診断
24	リハビリテーション 精神科専門療法 放射線治療	・リハビリテーション 疾患別リハビリテーション ・精神科専門療法 心身医学療法 ・放射線治療とは
25	まとめ：外来レセプト作成	・全範囲外来レセプト作成 ・学科問題の解き方

26	検定対策	・ 医事検定2級 模擬試験 ・ 学科問題
27	検定対策	・ 医事検定2級 模擬試験 ・ 学科問題
28	検定対策	・ 医事検定2級 模擬試験 ・ 学科問題
29	検定対策	・ 医事検定2級 模擬試験 ・ 学科問題
30	入院	・ 入院料・外来との違い・上書きについて

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの事故		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの事故		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	4	60
使用教材	保育園における事故防止と安全保育 第2判		出版社	日本小児医事出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもの発達とともに起こりやすい事故について学び、事故防止・サポートの方法を考察する。		
到達目標	乳幼児の事故を知り、事故防止対策と対応方法の理解を深める。 感染症予防・危機管理対策をふまえてた対応の仕方を習得する。		
評価基準	修得確認50%、ワークシート20%、授業態度30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許		
関連科目	子どもの保健Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	赤江 香織	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて教諭として3年勤務。保育園にて保育士として8年勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育園における事故防止の必要性/危険予知プログラム	保育園における安全管理の必要性和リスクマネジメントを学び、危険予知プログラムに取り組む。
2	乳幼児の事故/保育園での死亡事例	事故の定義と種類、死亡事故について学ぶ。誤飲チェッカーを通るものを調べる。
3	保育園での事故/子どもの性格および母親の考えと事故	事故の実態と遊具で発生した事故事例について調べ、子どもの性格との関係性について考える。
4	心肺蘇生法と気道異物除去	心肺蘇生法・気道異物除去を習得する。
5	応急手当と受診のめやす	応急手当の方法を習得し、病気の際の看護と受診の目安について学ぶ。
6	アレルギー	アレルギーについて学び、エピペンの使用法を習得する。
7	保育園での事故対策/保育園における幼児教育	保育園における安全管理の現状を知る。保育園における幼児教育について学ぶ。
8	実習時に学び得たこと	実習を振り返り、学んできたことをまとめる。

9	事故の特性と主な事故パターン	事故の特徴と事故パターンをまとめ、防止策を考える。
10	事故防止のためのチェックリスト	リスク対策を学び、各年齢のチェックリストの確認をする。
11	事故防止対策の現状/事故防止対策実施についての自己点検	事故防止対策の現状を学び、前回のチェックリストを振り返る。
12	事故の要因分析	事故分析の必要性を学び、事故対策を考える。重大事故の届け出について学ぶ。
13	修得確認	前期の内容についての修得確認試験を受ける。
14	前期まとめ	前期のまとめをする。
15	前期まとめ	前期のまとめをする。
16	事故発生時の対応とトラブル防止	事故発生時の対応の重要性を認識し、トラブル防止のためにできることを考える。
17	子どもの発達と事故/保護者の保育園に対する要望と考へ	子どもの年齢と行動特性からどのような事故が起こりやすいのかを考え、保護者対応を学ぶ。
18	保育園から家庭への事故防止支援策	保育園用事故防止プログラムについて学び、家庭への事故防止支援をすることの意味を考える。
19	地域への事故防止活動/安全教育	地域への事故防止活動について学び、安全教育ができるようにプログラムを立てる。
20	保育園での安全保育	SIDS、誤嚥、溺水、食中毒、熱中症の対応について学ぶ。
21	保育園での安全保育	虐待、不審者、誘拐、園外活動、地震・火災の際の対応について学ぶ。
22	新入職員用安全保育のためのチェックリスト/安全・防犯指導	新入職員用安全保育のためのチェックリストを確認する。安全・防犯指導について学ぶ。
23	感染症	保育園での感染症対策について学び、各感染症の主症状および治療と予防について調べる。
24	感染症	各感染症の主症状および治療と予防について調べる。
25	感染症	各感染症の主症状および治療と予防について調べる。
26	消毒法/予防接種	感染症の二次感染防止のための消毒方法を学ぶ。予防接種の役割と種類について学ぶ。
27	急病時の観察チェックリスト/病気の際の看護と受診のめやす	急病時にどのようなことに着目して観察するのかについて学ぶ。受診の目安について知る。
28	修得確認	後期の内容についての修得確認試験を受ける。
29	総まとめ	後期のまとめをする。
30	総まとめ	後期のまとめをする。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カウンセリング		
必修選択	選択	(学則表記)	カウンセリング		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	30
使用教材	保育園・幼稚園で使えるカウンセリング・テクニック		出版社	誠信書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	自己理解と他者理解についての知見を深め、より良い人間関係の構築について学ぶ。		
到達目標	・子どもの心へのかかわり方が理解できる。 ・多様な悩みやニーズを抱える保護者への理解とかかわり方が理解できる。 ・職場での良好な人間関係の構築と良好なチームワーク作りのためのスキルを取得し、実践に生かすことができる。		
評価基準	小テスト：40％ 授業態度：60％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	心理カウンセラー初級		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	豊田 順子	実務経験	○
実務内容	公立小学校・中学校、専門学校にてスクールカウンセラーとして10年勤務 (公認心理士・臨床心理士・学校心理士の資格保持)		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育カウンセリングの基本的な考え方	オリエンテーション 保育現場でカウンセリングが求められている（P2～4）ことの背景を理解する。
2	保育カウンセリングの基本的な考え方	保育カウンセリングとは（P5～10）を理解する。
3	保育カウンセリングの基本的な考え方	よい関係をつくるために（P11～14）を理解する。
4	保育カウンセリングの基本的な考え方	傾聴－保育者が寄り添うということ（P15～20）を理解する。
5	保育カウンセリングの基本的な考え方	子どもの心の発達（P21～24）を理解する。
6	保育現場で使えるカウンセリング技法	I ベーシック－雰囲気合わせ（P26～27） II うなずき、あいづち（P28）を習得する。
7	保育現場で使えるカウンセリング技法	III 伝え返し－リフレクション（P29～31） IV ミラーリング（P32）を習得する。
8	保育現場で使えるカウンセリング技法	V わたしメッセージ（P33～34） VI リフレーミング－見方を変えれば短所が長所になる（P35～36）を習得する。

9	保育現場で使えるカウンセリング技法	VII 勇気づけ (P37～38) VIII がんばり見つけ－エンカウンター (P39) を習得する。
10	保育現場で使えるカウンセリング技法	IX モデリング－お手本 (p40) X ピアサポート (p41) を理解する。
11	保育現場で使えるカウンセリング技法	XI アサーション (p42～44) XII ソリューション・フォーカス・アプローチ (p45) を理解する。
12	子どもにかかわる保育カウンセリング	I かんしゃくがとまらない子 (P48～52) II 友だちと遊べない子 (P53～56) の理解と対応について学ぶ。
13	子どもにかかわる保育カウンセリング	III ケンカが絶えない子 (P57～60) IV 保育者になつかない子 (P61～63) の理解と対応について学ぶ。
14	子どもにかかわる保育カウンセリング	V 関心をもったり集中したりできない子 (P64～66) VI 嘘をつく子 (P67～69) の理解と対応について学ぶ。
15	子どもにかかわる保育カウンセリング	VII 暴力をふるう子 (P70～72) VIII よい食習慣がない子 (P73～76) の理解と対応について学ぶ。
16	子どもにかかわる保育カウンセリング	IX まばたき・指しゃぶりが多い子 (P77～80) X 性に関心のある子 (P81～85) の理解と対応について学ぶ。
17	子どもにかかわる保育カウンセリング	XI 発達に課題のある子 (P86～88) XII 家族が問題を抱えている子 (P89～92) の理解と対応について学ぶ。
18	保護者にかかわる保育カウンセリング	I 保護者との信頼関係 (P94～97) を構築することの意義と留意点を理解する。
19	保護者にかかわる保育カウンセリング	II かかわり方のポイント (P98～108) の理解と技術を獲得する。
20	保護者にかかわる保育カウンセリング	III 関係づくりのポイント (P109～122) を理解する。
21	保護者にかかわる保育カウンセリング	IV 親と子の関係性を支援する－子育て支援 (P123～125) の理解と支援の方法を学ぶ。
22	保護者にかかわる保育カウンセリング	V 発達障がいのある子どもを抱える保護者へのかかわり (P126～128) を学ぶ。
23	保護者にかかわる保育カウンセリング	VI 精神疾患を抱える保護者へのかかわり (P129～131) を学ぶ。
24	保護者にかかわる保育カウンセリング	VII 地域のネットワークにつなぐ (P132～136) ことの理解を深ぶ。
25	保護者にかかわる保育カウンセリング	VIII 保育者と保護者で行う新しい取り組み－「おむつなし育児」 (P137～139) を概観する。
26	同僚の保育者と支えあうための保育カウンセリング	I カウンセリングは保育者の定着率アップとメンタルヘル스에役立つ (P142～144) ことを理解する。
27	同僚の保育者と支えあうための保育カウンセリング	II 保育者同士のチームワークを育む－三つのワーク (P145～147) について理解する。
28	同僚の保育者と支えあうための保育カウンセリング	III 管理者が保育者に行うカウンセリング (P148～152) IV 保育者のための専門家によるコンサルテーション (P153～156) V 保育者の定着化のために (P157～159) を学ぶ。
29	同僚の保育者と支えあうための保育カウンセリング	VI 保育者のメンタルヘルスのために (P160～164) 自分自身の心を大切にして、悩みを解決していく方法を学ぶ。
30	総括	1年間を通しての振り返りを実施する。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	教育実習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	教育実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	90
使用教材	なし			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼稚園での体験を通して、保育のやりがいと責任を学び、保育の知識と技術を深める。				
到達目標	指導案を作成し、必要な準備をした上で、子どもたちの前で実践できる。 時系列に沿って、子どもたちへの留意点を踏まえた日誌を作成できる。				
評価基準	保育現場評価、実習日誌、実習準備、参加態度等を総合評価 小田原短期大学の実習評価基準に準ずる				
認定条件	・ 10日以上、実保育時間（休憩除く）80時間以上 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	幼稚園教諭免許				
関連科目	保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、教育実習Ⅱ、教育実習事前事後指導				
備考					
担当教員	向谷地 紀子			実務経験	○
実務内容	幼稚園・認定こども園にて保育士、幼稚園教諭として13年勤務				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅰ（保育所）		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	医療保育科	2	90
使用教材	なし			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場での体験を通して、保育のやりがいと責任を学び、保育の知識と技術を深める。				
到達目標	指導案を作成し、必要な準備をした上で、子どもたちの前で実践できる。 時系列に沿って、子どもたちへの留意点を踏まえた日誌を作成できる。				
評価基準	保育現場評価、実習日誌、実習準備、参加態度等を総合評価 小田原短期大学の実習評価基準に準ずる				
認定条件	・ 90時間（休憩含む）以上または、実保育時間（休憩除く）80時間以上 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格				
関連科目	教育実習Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育実習事前事後指導				
備考					
担当教員	向谷地 紀子			実務経験	○
実務内容	幼稚園・認定こども園にて保育士、幼稚園教諭として13年勤務				